

4.1

主な内容

- P4 平成20年度予算の概要と特徴
- P8 高崎市第5次総合計画を策定
- P11 不妊治療費を助成します



人口と世帯 (平成20年2月29日現在)

男 170,917 (23)
女 175,727 (54)
計 346,644 (77)
世帯 139,466 (91)

* ()内は前月比

紙 上 美 術 館



山口 薫《緑の花嫁》〈やまくちかおる・みどりのはなよめ〉

(高崎市蔵)

山口薫は1907年群馬郡箕輪村に生まれ、抽象と具象の間を行き来した画家と評される。この作品は、洋画家としての地位を確立して都内に在住し、東京芸術大学で教鞭(きょうべん)をとっていた時代のものである。故郷の風景の色合いを心の中に持ち続けていた山口は、この作品においても、故郷で身近に接していた杉林の深緑や崖線にあたる夕日の赤を使っている。花嫁の表情はあえて描かれておらず、鑑賞者の想像力をかきたてる。

編集後記

お堀の桜が咲き始めた3月29日、全国都市緑化ぐんまフェアが開幕した。もてなし広場を中心にまちなかが舞台となる高崎会場は、これまでの緑化フェアでは例の無い中心市街地での開催である。古来高崎は商人の町として、もてなしの心を培ってきた。今回のフェアでも、そうしたまちの気質が表れ、訪れる人たちに高崎が素敵なまちとして映ることを願っている。(ふ)

高崎♥家族の物語



今月の家族 父・西山啓市さん
子・西山篤史さん

(江木町)

第52話「剣道具」

「皆さんに支えられているおかげですよ」。啓市さんは穏やかに話す。剣道具を作り続けて40年。面・胴・甲手・垂、すべてを手作業でこしらえる職人は県内ではほかにいない。数年前、啓市さんが、英国で開かれた剣道の世界大会に同行した時のこと。エリザベス女王ご臨席のもと、剣道に対する高い評価を目の当たりにし「剣道(具)は文化」だと思った。先人の素晴らしい知恵が詰まった技術。後を継ぐ篤史さんは「しっかりと受け継ぎ、伝えていきたい」。親子が精魂込めるその一針が、日本の文化を支えている。

